

# 安心できる子育ての実現には

病院長 中村 肇



本院では、昨年10月から小児救急医療センターを開設し、兵庫県における小児救急医療の拠点として、兵庫県下各地からの三次救急患者の受け入れ体制を整えることができました。各地の病院小児科、小児科開業医と連携をとりながら救急患者用集中治療ベッドの有効活用を図っているところです。救急医療を通じて、「安心できる子育ての実現」のために、次の二つの点を強調したいと考えます。

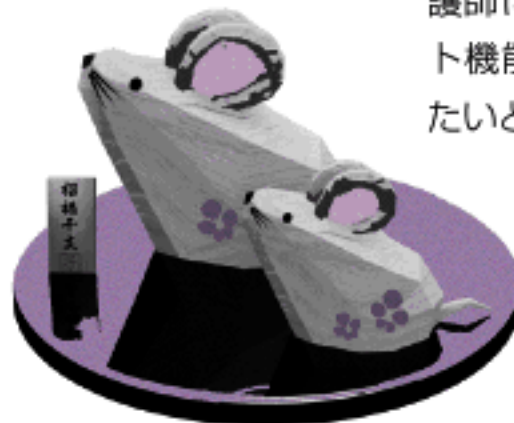
第一点は、救急に連れてこられる1歳を過ぎた子どもたちをみると、その命を脅かすのは、病気ではなく、交通事故、転倒・転落、溺水、熱傷といった外傷が一番の原因となっていることです。小児科医だけでなく、小児外科医、脳神経外科医、整形外科医、形成外科医がチームを組んでの集中医療を必要とする患者です。しかし、外傷は「治療よりも、予防が第一」であることを再認識して頂きたい。

第二点は、限られた医療資源の有効活用です。昨今の小児科医師不足はより深刻化しており、とくに、夜間の医師数は絶対的に不足しています。限られた医療資源を有効活用するには、県下各地の病院小児科が緊密な連携を取り、患者の病状に応じて医療機関を選択することです。それには、患者さんのご協力が不可欠です。

子どもの病気は、生命に関わるような重症な状態でなくでも、ご両親にとっては夜間の子どものわずかな変化が心配なものです。少産少子社会に入り、ひとりひとりの子どもへの親の期待は従前に比べ遥かに大きく、また核家族化の社会であるために親の育児不安は一層高まっています。本院では小児の三次救急施設として機能しているだけでなく、#8000という時間外電話相談を行っており、ベテランの看護師が対応、受診の必要性についてアドバイスをしています。多くの相談者は電話のみで安心し、受診することなく翌朝まで家庭で見ておられるケースが少なくありません。

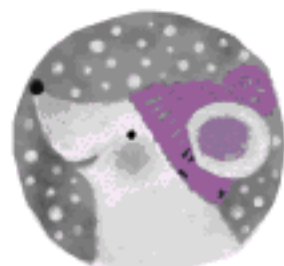
地域の医療資源は、特定の患者のためのものではありません。医療者が忘我献身的に診療に励んでも、同時に患者さん同士がお互いに譲り合いの精神をもって受診されないことには資源は枯渇してしまいます。

これからの小児医療においては、救急救命だけでなく、「安心できる子育て」支援を目指して、専門の医師・看護師によるトリアージ機能・デストリビュート機能、それに患者の理解と協力をお願いしたいと考えています。



# 新MRI装置 稼動開始

放射線科



約2ヶ月間のMRI装置更新工事が完了しました。工事期間中、関係の皆様にはご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。

新MRI装置名は、フィリップス社製「Achieva 1.5T Nova Dual」です。磁場強度は1.0T (テスラ) から1.5T (テスラ) にパワーアップされました。

(1.0テスラ=10000ガウス エレキバン等の磁気医療用具はだいたい1000ガウス前後です)。これにより画像を作る上で重要な要素である信号量は約1.5倍に増加し、見た目もきれいで診断情報量の多い写真を得ることができるようになります。撮影方法も各段に増え、様々な組織コントラストの写真を得ることも可能となりました。検査室の内装も一新し、日本では初のAmbient Experience (アンビエント イクスパリエンス) を導入しました。Ambient Experienceは検査室内の色調を変化させたり、壁面に風景やアニメーションを投影させることにより、患者様にはリラックスした状態で検査を受けていただけるような環境を作ります。気になる撮影時間ですが、一回の撮影時間は若干短縮されますが、基本的には今までの総検査時間とあまり変わりません(30分~50分程度)。しか

し撮影方法により一画面1秒以下で撮れる方法もあり、患者さまの容体、病巣の種類、場所、大きさ等考慮しながら、検査を組み立てていきます。また、MRI検査特有の騒音ですが、磁場強度の上昇と共に音が大きくなる傾向があります。検査時には耳栓をお持ちいただければある程度解消されると思いますのでよろしくお願いいたします。主な検査時の注意事項は、金具類(ホックやファスナー、ラメ等)の付いてない服装、時計や磁気カード類・ゲーム機など精密機械の検査室内への持ち込み禁止、ペースメーカー埋め込みの方は検査禁忌、等今までと変わりありません。また眠剤を使用して検査を受けられる方は、睡眠不足状態での来院を引き続きお願いします。今後ともMRI検査へのご協力よろしくお願いいたします。



# 「かかりつけ薬局」って、ご存知ですか？

薬剤部

当院の外来患者さんには、医師から処方されたお薬を、保険(調剤)薬局でもらっていただく「院外処方せん」をお願いしております。保険(調剤)薬局では、薬剤師が患者さん個々の薬のカルテ(薬歴)を作り、この薬歴をもとに、同一成分の薬が重複して処方されていないか、飲み合わせの悪い薬が出ていないか、市販薬・健康食品との飲み合わせは大丈夫か、など副作用を未然に防ぐためのチェックをしています。病院・医院から処方されたお薬をあちこちの薬局でもらうのではなく、薬をもらうのはこの薬局!という「信頼できる薬局」を決め、そこを患者さんの「かかりつけ薬局」にしてください。

そうすることにより、その薬局は患者さんの薬に関する情報を1つにまとめて管理することができ、「いつもと違う薬の種類や量」「副作用」を見つけやすくなります。より安全で安心してお薬を飲んでいただくために、ぜひ、「かかりつけ薬局」をお持ちください。



## 小児救急医療センターへの 温冷蔵配膳車について

栄養指導課長 下浦佳之

平成19年10月1日に小児救急医療センターがオープンしました。栄養指導課においては、小児救急医療センターへ入院された患者様に「温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たく」、適温で食事を提供させていただくため、写真の自走式温冷蔵配膳車を導入致しました。

見た目は重たそうですが、自走式なので軽くタッチするだけでスムーズに動く優れものです。今は配膳車のボディにまだ何も図柄が描かれてないので、少し寂しい感じがします。今後は子ども達に喜んでいただけるようボディに楽しいデザインを施す予定です。どんなデザインになるか、これからのお楽しみです。



Correspondence  
from  
Pharmacy  
薬剤部通信

Notice  
from  
Dietician  
栄養指導課案内

# 妊娠と葉酸、ビタミンA

周産期医療センター産科科長兼部長 船越 徹

最近、妊娠初期の方からの「妊娠反応が陽性だったので読んだ本に妊娠初期に葉酸をとるのが良いと書いてあった。そこで葉酸をとるためにレバーを毎日1週間食べたが、別の本にレバー中にはビタミンAが多く含まれており、妊娠中にビタミンAをとり過ぎるのは良くない、胎児奇形発症の可能性があると書いてあった。大丈夫でしょうか？」という相談がありました。

近年、先天異常の中で、二分脊椎などの神経管閉鎖障害について、欧米を中心とした諸外国で疫学的研究が行われ、妊娠可能な年齢の女性への葉酸摂取がその発症リスクを低減することが報告されています。また、欧米諸国においては妊娠可能な年齢の女性に対して、神経管閉鎖障害の発症リスクを低減するため、葉酸摂取量を増加させるべきであると勧告されています。わが国の二分脊椎の発症率は低かったのですが最近増加傾向にあり、また、今後さらなる食生活の多様化により、食物摂取の個人差が大きくなり葉酸摂取が不十分な者が増加する懸念があります。

葉酸はビタミンB群の仲間ではほうれん草から見つかったものです。貧血の治療に使われており、細胞の発育に必要な栄養素です。妊娠中は葉酸の必要量が増加するので平均的な食事では不足してしまいます。葉酸は、緑黄色野菜、豆類、果物などに多く含まれ、調理による損失や体内における蓄積性が低いことを考えて、毎日摂取する必要があります。食事からの適正な葉酸摂取が困難な場合は食事全体のバランスに留意の上、栄養補助食品の利用も推奨されます。疫学的調査から神経管閉鎖障害が発症するリスクを低減するために、妊娠の1ヶ月前から妊娠3ヶ月（妊娠12週）までの間、1日0.4mgの葉酸を摂取すれば、集団としてみた場合にその効果が期待されます。神経管閉鎖障害の発症は遺伝要因などを

含めた多因子による複合的なものであり、葉酸摂取で必ずその発症が予防できるというものではありません。葉酸摂取による神経管閉鎖障害発症の低減率は本邦では28%と想定されています。

★ ★ ★

レバーは葉酸を豊富に含みますが、ビタミンAも豊富に含んでいます。ビタミンAの大量投与による動物実験で催奇形作用が報告されていますので、妊娠中または妊娠している可能性のある方はビタミンAの大量摂取を避けるべきです。ビタミンAの1日25,000IU以上の摂取は潜在的催奇形性があると考えられていますが、奇形の発生頻度



度が大幅に増加するわけではありません。通常の食事の場合であれば、心配はないようです。あくまでも薬品や栄養補助食品が問題になります。厚生労働省では妊婦のビタミンA摂取量の上限許容量を1日5,000IUとし、ビタミンAの継続的な大量摂取を避けるよう注意喚起しています。

★ ★ ★

まず、産婦人科を受診し、最終月経、月経周期、つけておれば基礎体温表、また、婦人科的診察、超音波画像所見等により正常妊娠であること、現在の妊娠週数、分娩予定日等を診断してもらった後に、担当医に妊娠初期のレバー摂取によるビタミンAの影響を相談するのが良いでしょうとお答えしました。

What's  
new  
in the  
hospital?  
診療部とクリニック

# HCU・外科系一般病棟とは・・・

看護部

急性期の呼吸管理を必要とするHCU (high care unit) とBCR (bio clean room) に加えて、2歳までの手術を受けられるお子様を対象とした病床数20床の病棟です。32名の看護師と各科の医師が連携し、適切な看護・ケアを行っています。



- HCUには、呼吸管理（人工呼吸管理が中心・ただし濃厚な看護・観察が必要な場合を含む）が必要なお子様や長時間に及ぶ手術後のお子様が入院されています。気管狭窄症を含む気道系の疾患や脳外科疾患のお子様が多く、北は北海道、南は九州まで全国から手術目的で入院されています。

- BCRは、HEPAフィルターで空気を濾過・洗浄し、水平層流方式で室内をクラス100に保てる部屋で、骨髄移植・同種造血幹細胞移植・自家末梢血幹細胞移植・化学療法後の骨髄抑制のある患者様、熱傷の治療を行う患者様を受け入れています。



- HCUでは治療・ケアはもとより入院中の患者様、ご家族の方々とともに季節により音楽会などを催し、楽しい時間を過ごせるように努めています。



## はじめまして!!

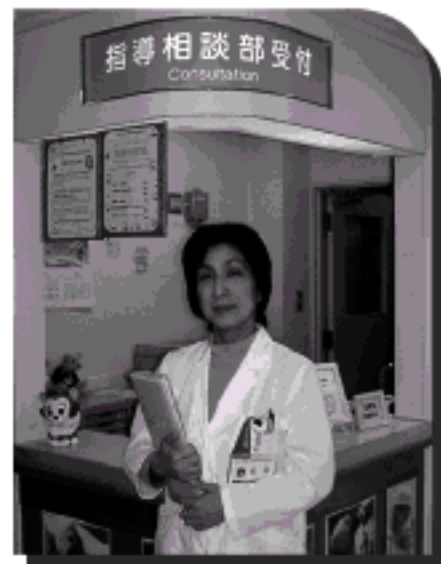
指導相談部 石田 福代

こども病院指導相談部で医療ソーシャルワーカーとして勤務させて頂いています、石田と申します。

主に医療費の助成制度や福祉制度についてのご相談をお受けしています。

大切なお子様の突然の入院で、医療費をどうしたらいいの？どんな制度があるんだろう？何か助成が受けられないの？ など疑問や不安をお持ちになられるのではないのでしょうか。そのような時には、ご遠慮なくお申し出ください。

お子さまやご家族の不安や負担が少しでも無くなる様に、御一緒に考えさせて頂きたいと思っています。弱輩者では御座いますが、どうぞ宜しくお願い致します。



About 看護部だより  
nursing care

News  
of 指導相談部門から  
the consultation

# 血液ガスの機械が新しくなりました！

検査・放射線部 藤中早代

救急医療センターの開設に伴い、新しい血液ガスの測定装置が救急医療センターと検査室に設置されました。【血液ガス】というのは、主に血液中の酸素や二酸化炭素を調べたり体内の酸・アルカリのバランスを調べる機械です。酸素はエネルギーを産生するために必要で脳への供給が10～20秒途絶えただけで意識不明に陥ります。3～5分間途絶えると脳細胞は不可逆なダメージを受けます。また酸・アルカリのバランスは呼吸による炭酸ガスの排泄、腎臓による調節、血液中の緩衝物質により調節されています。患者さんがどのような病態であるのかを検査の結果から判断し、適切な治療へと結びつきます。それ以外にも、血糖・電解質や酸素を運搬するHbや組織の酸素供給状況を示すラクテートなどたくさんの情報を得る事ができます。採血後遠心等せず検査でき、結果も直ぐに出るので緊急時に活躍する検査です！



## 『過換気(過呼吸)症候群』でご存知ですか？

酸素を取り入れすぎて（つまり過度に呼吸しすぎて）二酸化炭素を体の外に出しすぎると、血液中のpH(↑-↓)がアルカリ性に傾きます。これを呼吸性アルカローシスといいます。この状態になると、急に息が苦しくなって、動悸・めまい・手足のしびれなどの発作が出ます。ストレスや不安が関係しますが自然に軽快する場合はほとんどです。発作時は、息をこらえたり、紙袋を口にあて呼吸することで血中の二酸化炭素を増やすと楽になります。この発作のとき、血液ガスを検査するとpHの上昇や二酸化炭素分圧の低下がみられます。



血液ガスの測定装置



出演者の皆様に

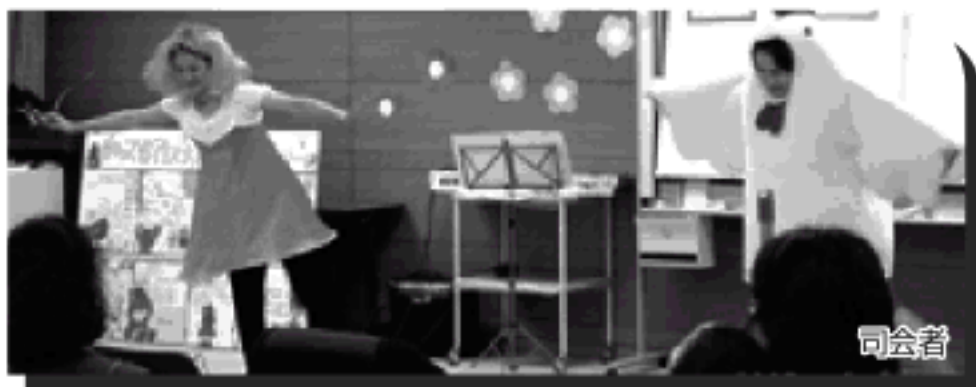
# 『よーおっ、日本ー!』

血液主体病棟

保育士 中村直子



今年も、子どものためのかくし芸大会『よっ日本ー!』が9月20日(金)に開催されました!まずは、司会者マリリンとコケコが『アンパンマン体操』を華麗に披露しました。そのあと、初参加の栄養指導課の学生さんたちによる『栄養パネルシアター』でちびまるこちゃん・たまちゃん・友蔵さんたちが活躍し、またまた初参加のフレッシュコンビによりサッカーボールを使った『リフティング』が披露されました。3つの玉でいろんな技が披露された『ジャグリング』、看護師4名による『パネルシアター～ねこのおいしゃさん～』では子どもたちも盛り上がりました。大いのにぎわっていた会場ですが、医師による『津軽三味線』の演奏が始まると、日頃あまり聴かない三味線の弦の音に吸い込まれたかのように、静かに聴き入っていました。





## 基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

## 基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践。
- 2.安心と信頼の医療の遂行。
- 3.専門的な高度医療の推進。
- 4.地域の医療・保健・福祉機関との連携。
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献。
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成。

## 患者権利宣言

- 1.あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
  - 2.あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
  - 3.あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
  - 4.あなたとご家族のプライバシーは守られます。
- ◆みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。
- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
  - 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひお寄せください。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。「げんきカエル」も平成15年4月に創刊され皆様のご協力のもと第20号を迎えることができました。これからもこども病院のさまざまな情報を提供していきます。編集委員一同頑張りますの

でよろしくお願ひします。今号の担当は藤井でした。

編集委員長：大橋 正伸（診療部）

編集渉外担当：久布白 歩（指導相談・地域医療連携部）

編集委員：福田 朝江（薬剤部）、菟野朱美（看護部）、

時古 あけみ（看護部）、藤井 康司（検査・放射線部）

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

## 兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1

TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL:[info\\_kch@hp.pref.hyogo.jp](mailto:info_kch@hp.pref.hyogo.jp)